

教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科自然・応用科学系講師の市育代先生をご紹介します。市先生は、大学院ではライフサイエンス専攻食品栄養科学コース、また学部では生活科学部食物栄養学科ご所属です。



Ichi Ikuyo
市 育代

失敗を恐れずに チャレンジしてほしい

Q 先生のご専門は何ですか？

大学では管理栄養士養成課程である食物栄養学科で臨床栄養という分野を担当しています。臨床栄養は医学的な知識に基づいて、病気の予防や治療を栄養学的に行うことを学ぶ学問になります。私たちは食べ物を食べることで、栄養素を体内に取り込み、これを利用して身体の構成成分を維持しています。しかし、これらの機能が正常に動かなくなり栄養素の利用が低下したりすると、病気が発症しやすくなり、病気もより悪化した状況になります。

臨床現場の管理栄養士は患者の栄養状態の変化を的確に判定し、病態に応じた栄養補給を行って、よりよい栄養状態を維持することが必要になります。臨床の現場でも、治療における食事療法の重要性が明らかになっています。私は食物栄養学科で、疾病に応じた栄養管理の方法について講義をしています。

Q 先生の研究室ではどういうことをテーマとされているのですか？

私は学生の頃から脂質栄養に関する研究を行ってきました。生活習慣が原因で起こる糖尿病や動脈硬化などの発症には、摂取する脂質や体内での脂質代謝の異常が深く関わっています。最近の脂質の栄養問題については“量”から“質”へと移行してきています。私たちが普段摂取している脂質(油)の中で、脂肪酸は大きなエネルギー源です。脂肪酸については、牛や豚などの動物性食品に多い飽和脂肪酸の過剰摂取が問題と

なっています。しかし、ヒトには摂取しなければいけない脂肪酸もあります。哺乳動物ではこのような必須の脂肪酸が欠乏すると、成長障害や魚鱗癬と言って皮膚が魚の鱗のように固くなったり、感染症にかかりやすいといった症状がみ

られたりします。我々の体内ではこのような状況になると、普段は存在しない脂肪酸が代わりに作られます。私はそのような必須の脂肪酸が欠乏している時に体内で出現してくる脂肪酸がどのようにしてできるのか、またその生理的意義について、主に培養細胞を用いて研究しています。

食物栄養学科は管理栄養士養成課程であり、私自身も管理栄養士ですので、このような栄養欠乏状態が疾病の発症や進展にどのような影響をもたらすかについても、今後研究していきたいと思っています。

私は今年度(平成23年度)の4月からお茶大に赴任してきましたが、今まで質量分析計を用いて、色々な脂質の微量分析を行ってきました。臨床の分野において、病気の原因物質や指標を見つけることは非常に重要なことです。本学には様々な分析装置が揃っているので、臨床的な研究のためにも、実際の人の血液を用いて、新たな臨床の指標となる物質を探すことができたらと思っています。

Q ご出身はどこですか？ 本学に赴任される前は？

出身は鹿児島です。お茶の水女子大学に赴任する前は奈良女子大学、鳥取大学、東京大学で助教をしていました。留学をして海外を経験してみたいとも思っていたのですが、大学のポストを探すのは厳しい状況になってきているので、博士修了後、すぐにポストにつくことができたのは本当にラッキーだったと思って

います。このようにいくつかの大学に赴任してきたことで、色々な大学の研究・教育のシステムを経験でき、視野も広がったと思いますし、今後にも役立つと思っています。

お茶大も大変伝統のある大学で、教育・研究の面で素晴らしい環境にあると思います。赴任して1年になりますが、自分のモチベーションも上げて続けていける場所だと感じています。

Q お茶大生の印象は？ お茶大の学生にメッセージを。

私もいくつかの大学に赴任して、学生の雰囲気は大学でかなり違うと思いました。お茶大の学生は真面目で、根気よく頑張る学生が多いと思います。また理解も早いことから、課題等に対する対応も早く、優秀だと実感しています。

ただ、少し積極性が欲しいと思うことがあります。視野を広く持つために、多くのことを勉強して欲しいと思いますし、色々なことを経験して欲しいです。失敗することもあると思いますが、失敗で思わぬ結果が生まれることもあります。結果のみを求めると、やる気も失せていくことがあります。結果が全てではなく、その過程も大事だと思いますので、失敗を恐れず、色々なことにチャレンジして、頑張ってください。

文責：赤松利恵
(大学院人間文化創成科学研究科
自然応用科学系准教授)

